

持続可能な生物多様性保全における都市公園の役割

— 国営昭和記念公園を事例として —

半田 真理子 森本 千尋

【要旨】

本研究は、持続可能な生物多様性保全における都市公園の役割を明らかにし、もって質の高い環境形成と公園緑地の管理運営に資することを目的として行った。特に本研究は、「持続可能性の確保には、普及啓発・情報提供等を通じて人々が生物多様性について理解し関心を高め、能動的な行動に移る必要がある」という観点からの分析が特徴である。国営昭和記念公園を事例とした文献調査や「こもれびの丘」ボランティア活動者へのアンケート調査（「今後も活動を続けたい」は約9割）の結果、本公園は、①生物の生息・生育に配慮した整備・管理、②普及啓発・情報提供、および③市民参加・市民協働によって持続可能な生物多様性保全に寄与していることが検証された。まとめとして、都市公園には持続可能な生物多様性保全に寄与する役割があり、今後一層、都市公園の創出と質の向上を図るとともに、都市公園の整備・管理にあたっては持続可能な生物多様性保全に総合的に配慮する必要があると提言した。

【キーワード】

持続可能性, 生物多様性保全, 国営昭和記念公園, 市民協働, ボランティア

国営公園における博物館的機能展開の可能性と課題

— 野外博物館事例調査を踏まえて —

堀江 典子 平松 玲治

【要旨】

国営公園をはじめ質の高い管理運営と利用者サービスが期待されている都市公園においては、園内の自然的あるいは歴史文化的資源の保全、調査研究、展示教育等、いわば博物館的機能の充実が求められる。一方で、博物館の一形態であるが公園的な空間構成を持つ施設に野外博物館があり、公園において博物館的機能を展開していく上で参考とできる点が多いと考えられる。そこで本稿においては、国営公園における博物館的機能の概況を踏まえ、野外博物館の概念と歴史的経緯、我が国における野外博物館事例の現況、海外における先進事例であるスカンセン及びオランダ野外博物館におけるヒアリング調査結果について整理した。その上で、国営公園をはじめ都市公園において博物館的機能を展開していく上での可能性と課題を、第一に社会的使命を明確に意識し伝えることの重要性、第二に植物管理と動物飼育を通じた貢献、第三に学校団体の重視、第四にボランティアの参画、第五に利用調査と満足度について取り上げ考察した。

【キーワード】

野外博物館, 博物館的機能, 国営公園, 社会的使命, スカンセン

都市公園等における地域野生植物の活用方策について

大浦 康史

【要旨】

近年、都市公園は多様な生物の生育空間として生物多様性の保全に貢献することが求められている。本研究は、国営公園以外の都市公園をはじめとした公共の緑地等における先導的な地域野生植物の活用事例を調査し、今後の都市公園における地域野生植物の活用のあり方を考察したものである。地域野生植物の活用について、盗掘等の問題に配慮しながらインターネット等の情報媒体を活用した積極的な情報発信をすること、地域野生植物の保全活動や調査活動への一般市民が参画し地域の都市公園、人材が連携すること、地域野生植物を題材に雑木林の保全活動や生物の多様性について学び、実

際の保全活動を通じて市民の環境問題等への意識向上や行動実践に結びつくよう活用することが重要である。

【キーワード】

都市公園, 国営公園, 野生植物, 情報発信

地域レベルの文化財的資源を有する国営公園における歴史・文化体験プログラ

ムに関する考察－国営みちのく杜の湖畔公園ふるさと村を事例として－

西川 清 平松 玲治 堀江 典子

【要旨】

全国に配置されている国営公園の中には設置目的、地域の特徴に応じて、国家レベル、地域レベルの文化財的資源が整備されている公園がある。文化財的資源を有する国営公園では公園施設でもある移築又は新築復元された古民家等を活用した歴史・文化体験プログラムが知的レクリエーション活動の一環として実施されている。本研究では、国営みちのく杜の湖畔公園ふるさと村（東北古民家園）を事例として、地域レベルの文化財的資源を有する国営公園における歴史・文化体験プログラムによる知的レクリエーション活動の特徴について考察した。

【キーワード】

国営みちのく杜の湖畔公園, 知的レクリエーション, 体験プログラム, 歴史・文化, 東北古民家園

[平成 21 年度自主研究] 市民参加型展示に関する調査研究

森本 千尋 小山 直人

【要旨】

平成 20 年度自主研究「市民参加型展示づくりに関する基礎調査」において、博物館における展示づくりへの市民参加の事例調査から、公園利用者自らによる公園情報の発信への展開の可能性について探ったが、これに基づき、実際に公園利用者の発案・作業に基づく展示づくりを試行し、実施・運営上の課題や今後の公園運営への応用の可能性について検討した。

【キーワード】

市民参加, 展示, 博物館, ワークショップ

[平成 21 年度自主研究] 全国公園管理実態調査の概要

森本 千尋

【要旨】

本調査は、全国の自治体の公園管理担当者に対するアンケート調査により、公園管理の現状と課題の整理を行うことを主目的として行っているもので、平成 21 年度においては、近年の管理課題（公園管理運営計画の作成、公園ホームページの運営、公園管理情報の電子化、特定外来生物や動植物への対応、意見や要望への対応）及び近年、公園での整備・導入が増えてきた施設（里山、田畑、ピオトープ、花による特色ある施設づくり、バーベキュー広場）について、その管理運

営状況等を調査した。

【キーワード】

都市公園, 管理実態, アンケート

緑・花文化の知識認定試験の記録

奥村 典康

【要旨】

本財団は、平成 11 年度から平成 22 年度まで“植物の知識と植物に関する文化”について、楽しく学ぶきっかけになること目指し『^{みどり}・^{はな}花文化の知識認定試験』を実施してきた。本稿でこの記録を取りまとめ、報告する。

【キーワード】

緑・花, 試験, 受験者, 記録

スイセン及びチューリップの開花調整について

保積 正樹

【要旨】

スイセン及びチューリップはまんのう公園における春の行楽シーズンの大きな集客要素で代表的な花修景色の 1 つで定着しており開花の時期に合わせ様々なイベントを計画し広報を行っている。春の告知や広報に関しては冬頃から準備を開始しなければならない為、目標とする開花時期は事前に想定し全体の内容を企画する必要がある。植物である為、天候等による生育のリスクマネジメントを行っていく事は重要であると考えられる。今回スイセン及びチューリップを対象とした人工的な温度管理を施す生育調整を行った結果を気象データ等と比較し分析していくものである。

【キーワード】

開花調整, スイセン, チューリップ, 加温管理, 遮光管理

管理運営への積極的な参加を促すための身近な公園に関する 環境情報の整備に関する研究

村上 暁信

【要旨】

本研究では、成人よりも地表面からの熱放射影響を強く受けると考えられる幼児に着目し、幼児の遊び場における地上 50cm 以下での平均放射温度 (MRT) 分布と幼児の行動を分析することで、幼児の高さで捉える MRT とその時間変化を明らかにすることを目的とした。まず実在の公園について空間形状と構成材料データを収集した上で 3D-CAD 対応型熱環境シミュレーターを用いて MRT の空間分布を算出した。次に実際の幼児と保護者の行動を 1 分毎に記録し、記録した地点ごとの MRT を読み取ることで、幼児が利用する場所の MRT の時間変化を分析した。その結果、幼児の高さで捉えた時の MRT は高い時で 38℃以上を示し、また幼児は保護者よりも熱環境の悪い場所に滞在している事が示された。幼児の実際の利用場所を考慮した上で熱放射環境の時間変化を捉えたところ、夏季において幼児は熱放射環境の悪い場所に長く滞在していることが示された。また保護者は幼児の熱環境に対してあまり配慮していないことも観察され、両者の感じる熱放射環境に最大で 5℃程度の差があることも示された。調査分析から得られた結果を用いて保護者に幼児の熱中症のリスクを伝えた結

果、全ての保護者から公園管理者にもっと環境を改善する手段を講じて欲しいなどの意見が得られた。紹介した調査結果については、子供が遊んでいる際の熱赤外面像が最もわかりやすいものであり、危険であることが強く感じられたとの意見が出された。また、公園の環境改善について今後意見を出していきたいとの意見が多く出たことから、身近な環境に存在するリスクをわかりやすく凶情報にして示すことで市民の意識を公園環境に向けさせることに繋がることが示された。

【キーワード】

可視化情報, 公園, 熱環境, 情報提供

歴史的に形成された地域景観の保全のための 公園管理市民団体の認識に関する研究

市川 薫

【要旨】

都市地域において、農村由来の樹林地が残存し市民によって維持管理が行われている公園を対象に、その歴史性や地域との関係について、市民団体がどのような認識を有しているか、立地環境と活動団体の経緯や特性とともに把握した。東京圏全体を対象にした解析からは、都市における樹林地の維持管理活動が、公有地で行われていることが多く、地域の農林家とのかかわりがそれほど高くないことが分かり、歴史性への認識もそれほど高くないことが予想された。一方で、2事例地域における土地利用解析とインタビュー調査では、公園の歴史性への興味は、団体や公園の特性が影響していると考えられたものの、両事例とも活動が行われていく中で、近隣の農家とのかかわりが生じつつあり、そうした中で公園の歴史性に関する知識を得ることが可能だということがわかった。

【キーワード】

都市公園, 地域づくり, 歴史性, 市民団体

都市公園の存在価値を向上させるための方策の研究2 ーバランスト・スコアカードを分析枠組みとしてー

八島 雄士 大森 哲朗

【要旨】

本研究は、「都市公園の存在価値を向上させるための方策の研究」をテーマとして、2年間に渡り、聞き取りを中心に調査してきた成果である。都市公園の管理運営をめぐる、財政逼迫、制度変更、利用者ニーズの多様化など、環境が変化するなかで、複雑性への対応とバランスへの配慮の両面を兼ね備えた経営方法が求められる。そこで、バランスト・スコアカードを分析枠組みとして、台湾、タイ、中国、韓国などアジアを中心とするユニークな取り組み、および、沖縄・福岡・佐賀を中心として、制度変更の現状を調査した。結論として、存在の重要さのみならず、性質や程度まで考慮することが求められている。そのために、これまでの実績の公表のみならず、問題解決や注意喚起のための管理会計情報にもとづいて意思決定や業績評価を行うことができれば、説明責任をより高度に果たすことができ、結果として、存在価値を高めることができる。

【キーワード】

パークマネジメント, バランスト・スコアカード, 管理会計情報, 存在価値

障害当事者の写真判読による公園バリアフリー情報の取得とそれを利用したバリアフリー情報提供手法の開発

美濃 伸之

【要旨】

本研究では、障害当事者による写真判読を主なアプローチとする公園バリアフリー情報の効率的な取得手法および、それらを利用者ユーザビリティ向上へつなげるための情報提供のあり方について検討する。21年度は、障害当事者のバリアフリー情報判読プロセスを明らかにすることによって、写真判読からどのようなバリアフリー情報が得られるのかについて検討するとともに、障害当事者の公園利用実態を把握することにより、情報提供がどのような場面で有効なのかについて考察した。その結果、写真の情報の中に、移動や遊びなどのアクティビティが可能かどうかを考える素材（段差や路面の様子、寄りつき、高さなど）が示されている時には、読み手がそれを自分の身体状況（車いすでの移動環境を含め）に当てはめ、アクティビティの可否を判断することが可能になると考えられた。また、公園利用の実態把握からは、エリアの特性によって必要とされる情報の内容やその提供のあり方が異なると考察された。

【キーワード】

バリアフリー, 障害者, 情報, 車いす, 写真

大規模公園の自然環境と生物情報を活用した

インタラクティブ環境学習システムの開発とその有効性の検証

一ノ瀬友博 山野浩嗣 板川暢 荻本央

【概要】

本研究は国営公園を始めとした大規模公園の自然環境とそこに生息する生物に関する情報を活用して、情報端末を用いたインタラクティブ環境学習システムを開発することを目的とし、そのシステムの検証を行った。開発したインタラクティブ環境学習システムは携帯端末として最も一般的な携帯電話を採用し、QRコードを読み取ることによりwebページにアクセスし、様々な情報を提供するものとした。どのようなシステム構成が利用されやすく、かつ効果的であるのか、4回に分けて検証した。その結果、本研究で開発したシステムは従来の標識と紙媒体で同様のプログラムを作成するのに比べて、簡便であり、様々な形に学習プログラムを変更できる可塑性を備えていることが明らかになった。また、アンケート結果からは利用者からの高い評価を得られ、利用者が楽しんでプログラムに参加できたことがわかった。しかし、スタッフや告知がない状態ではほとんど使ってもらえないことも明らかになり、システムの利用を促進するインセンティブをもうけることが必要不可欠であることがわかった。また、システムを用いることがどれだけ環境教育効果を高めているのかについては、より検討を加えていく必要がある。

公園における食のサービス向上と地域産業の活性化に関する研究

—国営3公園を事例とした実態と展望—

入江 彰昭 神藤 正人

【要旨】

本研究は、国営備北丘陵公園、国営讃岐まんのう公園、国営越後丘陵公園を対象に、公園における食のサービス向上と

公園による地域産業の活性化の2つの目標に向け、公園事業の新たな展開として食を基軸とした新たな公園文化の創造の可能性を探求するものである。利用者に対する意識調査等により、国営公園において地場の食材を使ったスイーツのカフェテラスを求める声、景色の眺めなどゆったりとした環境を公園レストランに求める傾向、さらには、公園を舞台になされる食のイベントにおいて、地場の食材を使いつつも非日常的環境に置かれたなかでの食の体験に人気があること等を明らかにし、これらの知見を相互に関連付け、食に絡んだ新たな公園文化創出の可能性を考察した。研究の成果として、一般の公園レストランでの利用者要望は、安さ、早さ、旬のものという順位であったが、公園の内外を問わず、地場食材を使ったレストランの場合、旬のもの、オリジナリティへの要望が安さ、早さを上回っていた。今後、そうした価値意識を有する利用者が増えるものと予想されることから、地場産業と連携した公園における食のサービス展開の可能性が大であることも考察された。

【キーワード】

国営公園，産直施設，食のサービス，地域産業，利用者意識